



「万博寺」参加報告

広報委員

本田 真大
ほんだ しんた

令和七年四月一三日から一〇月一三日までの一八四日間、大阪市の人工島・夢洲で大阪・関西万博が開催されておりました。開催期間終盤の九月二六日には一日限りの仏教イベント「万博寺」が開催され、約二五〇人の僧侶が宗派や地域を超えて会場に集いました。「生死脈々」をテーマに掲げた当イベントでは、生と死がつながり受け継がれていくことを主題に、漫才説法ライブやテクノ法要など多彩なプログラムが展開されました。

全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）は当イベントにおいて、全日



本仏教青年会への出演依頼を通し、「命告り」というプログラムに参加させていただきました。プログラム「命告り」は、壇上の僧侶と聴衆が共に祈りを捧げることがコンセプトに、参加宗派がそれぞれの儀式・法要を執り行うものですが、曹洞宗のステージでは「万国慰霊法要」を厳修し、万国の御霊に祈りを捧げました。

万博という特殊な環境の中、法要円成に至るまでには様々な課題がありました。セキュリティの関係で持ち込む仏具には様々な制限や事前の申請が課されることや、仏具撤収も含め各宗派一〇分



というタイトな出演時間など多くの制約がありました。その中で「共に祈る」というコンセプトに応える法要を模索し、検討の末に施食会をベースとした「万国慰霊法要」ができ上がりました。「万博寺」の会場は野外ステージのため、客

席だけでなく行き交う多くの来場者も聴衆となります。曹洞宗の法式の特徴の一つである緻密で一糸乱れぬ法要進退が遠くからも見えるよう、行道を組み込みました。

また読誦経典については、耳になじみやすい和文で檀信徒の皆さまに親しんでいただいている『修証義』を選びました。回向では随喜僧侶全員で万博参加表明国・地域名を読み上げ、略三宝中には来場の皆さまにも合掌いただき、共に祈りを捧げることができました。今回万博寺の「命告り」に参加させていただき、改めて曹青会や地域仏青会など自分の所属するコミュニティの大切さを

を共にすることができました。

それだけでなく、かつて全曹青の行事に参加された一般の方がたが会場に駆けつけてくださったり、他宗派のステージを見に来た来場者が、曹洞宗の法要でも共に手を合わせる姿が見られました。

「命告り」の場がもたらした良縁は、僧侶だけでなく、聴衆にも確かに広がっていったように思います。広がりゆくご縁の輪を喜びつつ、これからも自らの根ざす曹青会や地域仏青会での活動を、一層大切に行じていきたいと感じました。

実感しました。本プログラムを機縁として、普段交わることのない宗派や地域の僧侶達が一堂に会し、祈りの場



●執筆者プロフィール
本田真大

曹洞宗兵庫第二宗務所青年会 所属